

「そうだ」と未確認の事態 -隣接関係に基づく認識における含意-

木下りか

大手前大学

kishita@otemae.ac.jp

1. はじめに

様態を表す「そうだ」は、「直前」、「性質・内情」など、さまざまな用法を持つ。

- (1) 明日は晴れそうだ。(「直前」)
- (2) 花子はうれしそうだ。(「性質・内情」)

「そうだ」の意味記述には、「未確認」やそれに近似する概念が用いられてきた。

- (3) 「未確認」(中島 1991)

「予想(まだ確認されていないことがらについての考え持つこと)」(田野村 1991)

「可能世界(確認・確定された現実とは区別してとらえられた世界)」(菊地 2000)

「未確認」は、さらに複数の意味に分けられている。しかし、それらを包括する概念であるとしても抽象度が高すぎる。したがって、次の例において「そうだ」が使えない理由を、「未確認」という概念で説明するのは困難である。

- (4) (遠くに住む友人が直木賞を受賞した)念願の賞を受賞したのだ。*うれしそうだ。

そのいっぽうで、「そうだ」に「未確認」と呼びたくなるような意味が認められるのもたしかである。例文(1)には、「晴れる」ことが「まだ確認されていないがこれから確認可能である」というニュアンスが読み取れる。このことは「ようだ」と用いた例と比較すると際立つ。

- (5) 明日は晴れるようだ。(cf. (1))

木下(2001)では、隣接関係という概念を用いて「そうだ」の意味を記述した。本発表は、「そうだ」に漠然と読み取ることのできる「未確認」とは何かを明らかにしつつ、隣接関係に基づく認識との関連を考える。

2. 「そうだ」の意味と未確認の事態

- (6) P そうだ: 真偽不定のPと隣接する事態が、存在・生起していることを表す(木下(2001))。

隣接関係は、修辞としても、また、多義語が生じる動機としても重要な役割を果たし、人間の認識に関わる基本的な概念である。隣接関係は、外界の事物の関係であるが、重要なのは、それらが全体としてひとつのまとまりをなしていることである。(1)の場合であれば、「晴れる」という未来と隣接する過去が、その未来の事態成立の過程として「ひとまとまり」となっている。

次例において「そうだ」が使えないのは、「噂話」が「イベントが開かれる過程」に含まれず、両者が「ひとまとまり」をなしていないことによる。

(7) (噂を聞いて) 来月ここでイベントが開かれ*そうだよ/開かれるようだよ。

2.1 未来の事態

2.1.1 実現の過程が想定可能な未来

① 事態生起までの自然な順序が想定される場合—生起前の状態と隣接

(8) 空は黒雲におおわれていた。夕立が来そうだった。(『孤高の人』p.1101)

(9) (ボールが机の端まで転がってきたのを見て) 落ちそうだ? 落ちるようだ。

(10) 例文(9)における隣接関係: { ボールが机の上を転がる 机から落ちる }

= 「机から落ちる」過程として認識

(: 所与の現実、 : (P) 真偽不定の事態、 { } : ひとまとまり)

未来の事態はまだ実現していないという意味で、すべて未確認である。「そうだ」は隣接する相対的過去の事態の存在を示し、ひとまとまりとして両者の連続性を示す。過去と未来との時間軸が示されることで、これから実現し、直接認識が可能であること(未確認)が強調される。

② 条件を整えていくことで実現可能な未来—事態成立前の条件が整った状態と隣接

(11) これで、借金の算段もたちそうなので、来年、本当に、家が建ちそうだ。

(<http://iikagenn.blog.so-net.ne.jp/2008-11-17>)

(12) これで、不得意がなくなり、合格しそうです (tukaeru-takken.com/modules/xhld1/index.php?id=4)

(13) 例文(12)における隣接関係: { 不得意科目がなくなる 合格する }

= 「合格する」過程として認識

この場合も①と同様に、相対的過去と未来の連続性が意識化される。これから実現し、直接認識が可能である(未確認)という意味が強く出る。

2.1.2 実現の過程が想定しにくい未来

(14) 駅前の便利な場所に大きな空地がある。大規模商業施設でも何でも建ちそうだ。

(15) やることが多すぎて、大事なことを忘れそうだ。

(16) (天狗祭りでこわい天狗を見て) 天狗にバイバイする子供。大物になりそう!

(<http://www.youtube.com/watch?v=5Sn1Qhu6vXE>)

(17) 例文(16)における隣接関係: { 天狗にバイバイする(肝がかわっている) 大物になる }

= 「大物になる」条件の全体とその一部

(18) 大物になるようだ。(予言のようなニュアンス)(cf. 例文(16))

この場合、未来の事態と隣接する相対的過去は多様であるため、過去の事態のうちのどれかが、事態成立条件として隣接関係を構成する。「大物になる」ための条件の一部しか整っておらず、今後より確かな認識が可能であること（未確認）が表される。

2.2 発話時の状態

2.2.1 モノの存在—空間的隣接性

(19) その時、私は左岸の上部に石灰岩の崖があるのに気がついた。何かありそうだ。

(田野村(1991)の例文(16))

(20) (部屋の外で物音がした) 誰かいそうだ/るようだ。

(21) (山歩きをされていて) 川がありそうだ/あるようだ。

(22) 例文(21)における隣接関係：{ ある種の地形 川がある } = ひとつの空間として認識空間を移動すれば存在を直接知ることができる（未確認）、という意味が生じる。

2.2.2 感情・感覚—内外の隣接性

(23) (茫然自失としている人を見て) 閑間さん、顔をどこかで打たれましたね。皮が剥けて色が変わっております。痛いでしょう。痛そうです。(『黒い雨』p. 85)

(24) (太郎の表情を見て) うれしそうだ/うれしいようだ。

(25) 例文(24)における隣接関係：{ 太郎の表情 太郎の感情(うれしい) } = 内と外

「ようだ」と「そうだ」を比べると、「ソウダのほうは、視覚的、直感的に見たままを言うのに対し、ヨウダのほうは視覚、聴覚、その他の感覚により得た情報、あるいは周囲の状況も考慮に入れて推量した結果をいう」(寺村 1984 : 243-244)。「そうだ」には、「外」以外の情報を得られれば認識の確からしさの度合いを高めることが可能である（未確認）という意味が生じる。

2.2.3 部分—全体と部分としての隣接性

①モノの一部

(26) (テレビ映画のはじめの部分を見て) この映画、おもしろそうだね。

(27) (本屋で本をパラパラめくりながら) これがおもしろそうだ。これにしよう。

(28) 例文(27)における隣接関係：{ はじめの部分 はじめの部分から終わりまで } = 一冊の本全体を見れば認識の確かさの度合いを高めることが可能である(未確認)という含意が生じる。

②「高次認識(単純な五感では捉えられない認識)」—構成要素との隣接

(29) 何より、彼女は頭がよさそうだった。内藤のどんな言葉にも笑ってられるくらいの賢さがあった。(『一瞬の夏』p. 256)

(30) 機を見るに敏だね。きみは人を利用するのがうまそうだ。(『処女懐胎』p. 521)

「そうだ」と未確認の事態—隣接関係に基づく認識における含意

(31) (ブタが一つ目の実験課題をうまくこなしたのを見て) どうやらブタはかしこそうです。

(2001/2/18 放送のテレビ番組より)

(32) 例文(31)における隣接関係：

{

一つ目の課題をこなす	一つ目の課題をこなす	二つ目	三つ目	四つ目…
------------	------------	-----	-----	------

 }

= 「かしこい」の構成要素とその一部

3. おわりに

「そうだ」は隣接関係に基づく認識を表し、そこから、次のようなさまざまな「未確認」と呼べるような含意が生じると考えることができる。

A 未来の事態について述べる場合

- 1) 事態実現の過程が想定可能な場合：未来の事態すべてが持つ、時間が経れば実現し、直接認識可能という意味が強く出る。
- 2) 事態実現の過程が想定しにくい場合：実現の要件が満たされていけば、より確かな認識が可能である。

B 発話時の状態について述べる場合

- 1) 空間の隣接：移動すれば直接認識可能である。
- 2) 内と外：「外」以外の情報によってより確かな認識に至ることが可能である。
- 3) 全体と部分：知り得た部分的な事柄以外の事柄（全体）を知ることによって、より確かな認識に至ることが可能である。

用例の出典 『新潮文庫の100冊』CD-ROM版、検索エンジン Google(2011年6月検索)

参考文献

- 菊池康人(2000)「「ようだ」と「らしい」—「そうだ」「だろう」との比較も含めて—」『国語学』第51巻1号 pp.46-60
- (2000)「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味—あわせて、その否定各形の意味の差について—」『日本語教育』107号 pp.16-25
- 木下りか(2001)「事態の隣接関係と様態のソウダ」『日本語文法』1号 pp.137-158
- (2006)「直喩と真偽判断—ヨウダの多義性と類似点の焦点化—」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会編『日本語の教育から研究へ』くろしお出版 pp.197-205
- 田野村忠温(1991)「現代語における予想の「そうだ」の意味について—「ようだ」との対比を含めて—」『国語語彙史の研究』和泉書院 pp.左1-20
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 中島孝幸(1991)「不確かな様相—ヨウダとソウダ—」『三重大学日本語学文学』2 pp.26-33
- 村松由起子(2010)「「そうだ」「ようだ」の場面共通性について」『豊橋技術科学大学人文科学系紀要』pp.45-54
- 榎山洋介(2010)『認知言語学入門』研究社